

専門学校 久留米リハビリテーション学院 授業評価 —令和元年度の結果—

本学院では、授業の質の向上を念頭におき、「学生の授業満足度の把握と教員の研鑽」を目的として、専任教員の担当科目を対象に平成 18 年度より授業評価を開始、平成 20 年度より本格的にアンケート結果の分析を進めてきた。これを実施することにより、各教員が担当している科目の授業内容を振り返り、次期あるいは次年度に活用することで授業の質の向上を目指した。しかし、授業アンケートを進めていく中で、このアンケート結果を個々教員の授業改善だけでなく全教員がある一定の教授力を持てるように活用することで教育の質の担保ができないかと考え、平成 23 年度に授業アンケートのリニューアルを実施し、久留米リハビリテーション学院の授業における教員の取り組みや学生の満足度を広く公開することとした。

【学生による授業評価】

1. 評価項目

授業評価項目は、授業に関する一般事項と本学院の特徴である e-school に関する事項とした平成 22 年度までの授業アンケートと同様の項目を大項目とした。細項目については、一部の文言を修正、各大項目における項目数の見直しを行った。大項目および細項目については、以下に示す。

(1) 教員の授業の進め方

- ① 授業担当者は、授業の目標や内容を明確に示していた。
- ② 授業担当者は、指定された教科書あるいは参考書の活用方法を提示していた。
- ③ 講義時間と実技実習時間の配分は適切だった。(該当科目のみ)
- ④ 授業担当者は、効果的に学生の参加（発言等）を促した。
- ⑤ 授業担当者は、学習に対する適切な助言を与えてくれた。

(2) 教員の伝え方

- ① 板書および配布資料などは、効果的であった。
- ② 授業担当者の話し方は、聞き取りやすかった。
- ③ 授業担当者の説明は、分かりやすかった。
- ④ 実習や国家試験に活かせる知識、技術を習得することができた。

(3) 教員の関わり方

- ① 授業担当者の授業に対する熱意を感じた。
- ② 授業担当者は、学生の迷惑行為（私語）を注意し、適切な授業環境を保つことに努めた。
- ③ 授業担当者は、学生の質問や相談に対し適切な助言を与えてくれた。

(4) パソコンや教材の活用

- ① 授業担当者は、パソコンのスライドやメディアなどを効果的に活用していた。
- ② 自分は、この授業の学習（授業・自己学習）においてパソコンを効果的に活用できた。
- ③ 指定された教科書や参考書は学習内容を理解するのに役立った。

(5) 学生の授業へのモチベーション

- ① 授業を受けて、学習意欲が高まった。
- ② 自分は、この授業に意欲的に取り組んだ。
- ③ 総合的にみて、この授業は満足できるものであった。

2. 評価の方法および集計方法

平成 22 年度までの授業アンケートにおいては、上記の評価項目に対し「強くそう思う」「そう思う」「そう思わない」「強くそう思わない」の 4 つの選択肢のうち該当するもの一つを選択してもらい、どの選択肢にも該当しない項目については「無回答」とした。しかし、平成 23 年度より、選択肢を「強くそう思う」「そう思う」「どちらとも言えない」「そう思わない」「強くそう思わない」の 5 つの選択肢に変更した。また、「無回答」は、回答対象者のうちアンケート実施日に欠席した学生数とした。また、感想・意見・希望などについては、前回のアンケートより変更せず自由に記載してもらった。

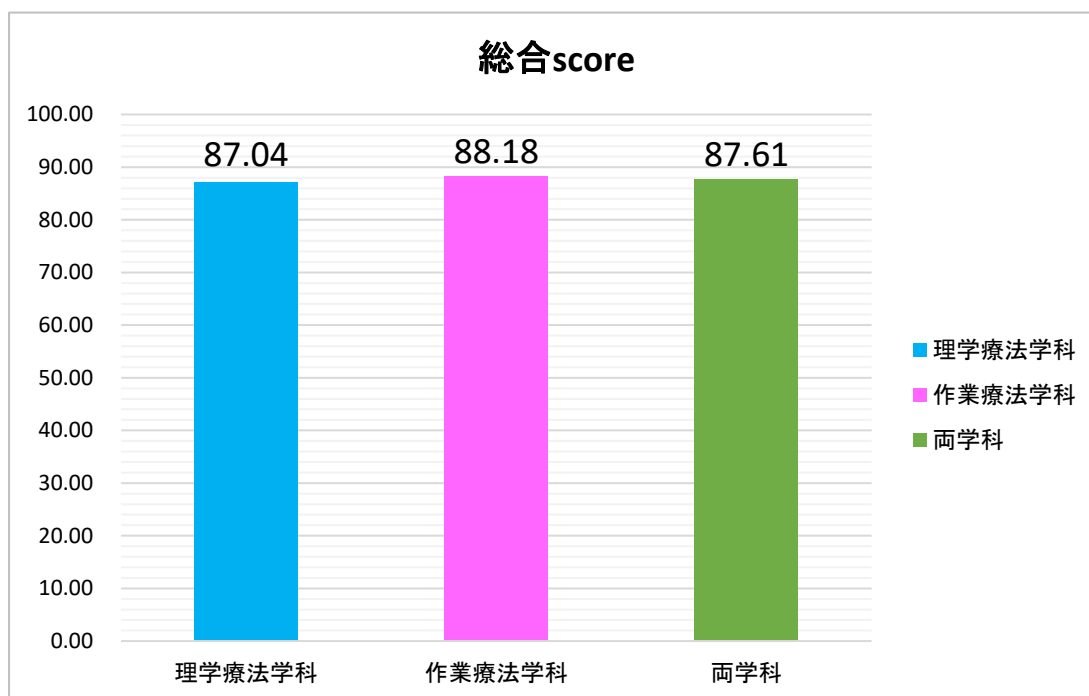
集計方法については、各選択肢を以下のように点数化し、各項目についてすべてが「強くそう思う」だった場合を満点として 100 点満点換算し、その割合を大項目ごとにグラフ化した。

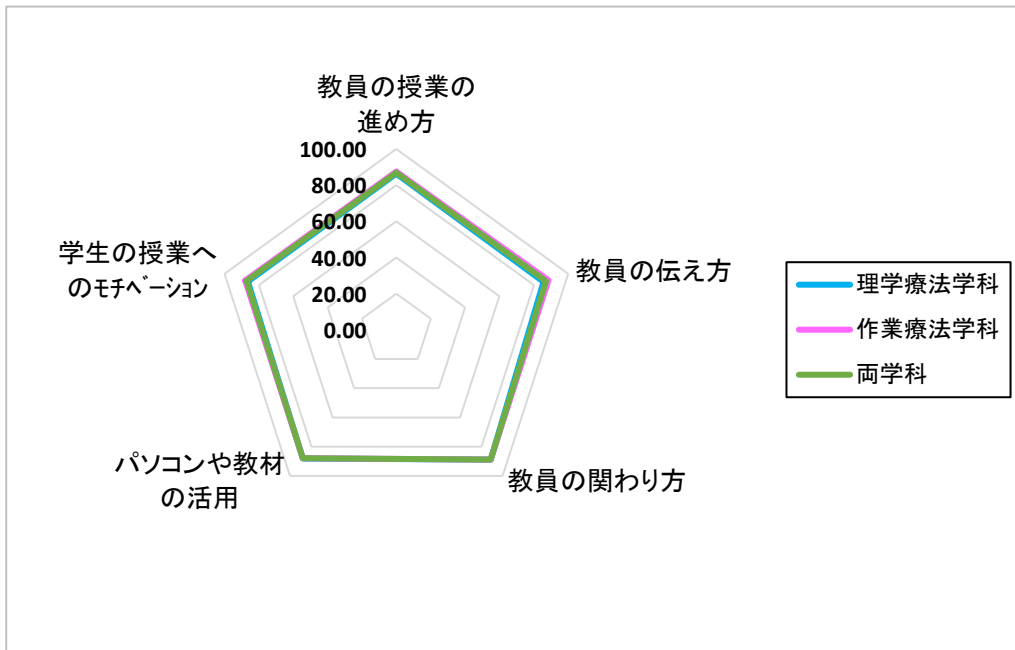
「強くそう思う」	: 5 点
「そう思う」	: 4 点
「どちらとも言えない」	: 3 点
「そう思わない」	: 2 点
「強くそう思わない」	: 1 点
「無回答」	: 0 点

3. 結果

集計結果については、以下のような結果となった。

	理学療法学科	作業療法学科	両学科
教員の授業の進め方	86.34	87.54	86.94
教員の伝え方	85.63	88.53	87.08
教員の関わり方	88.83	88.83	88.83
パソコンや教材の活用	88.02	88.00	88.01
学生の授業へのモチベーション	86.40	87.98	87.19
総合 score	87.04	88.18	87.61





	理学療法学科			作業療法学科			両学科		
	H29	H30	R1	H29	H30	R1	H29	H30	R1
教員の授業の進め方	88.96	87.01	86.34	88.37	88.58	87.54	88.66	87.80	86.94
教員の伝え方	86.25	85.76	85.63	90.46	89.71	88.53	88.36	87.74	87.08
教員の関わり方	90.61	88.66	88.83	91.40	90.44	88.83	91.01	89.55	88.83
パソコンや教材の活用	89.83	87.44	88.02	88.79	87.96	88.00	89.31	87.70	88.01
学生の授業へのモチベーション	88.17	87.01	86.40	90.30	89.09	87.98	89.23	88.05	87.19
総合score	88.76	87.17	87.04	89.86	89.15	88.18	89.31	88.17	87.61

(学生による自由記載欄のコメント)

科目	代表的なコメント
運動系統学 (PT・OT)	骨模型を使いテーピングで筋の起始停止を自分達でできて理解が深まった。/ひとつひとつの筋に機能があって、それぞれを深く学ぶことが楽しかった。/個人での学習ではなくグループで授業を受けることで集中力も高くなり、わからないところも班員に聞きやすかった。/最初苦手意識があったけど、段々わかってきてテスト勉強する頃から楽しくなった。/わからない箇所をわかるまで教えてもらい、理解できたところが多くあった。/ひとりひとりの質問に丁寧に答えてもらいよかった。
臓器系統学 (PT・OT)	暗記ではなく理解してほしいという気持ちが伝わってきた。生徒同士のコミュニケーションを大事にしつつメリハリのある授業だった。/学んだことが後々つながっていくことを理解させるために、何度も前に戻って復習するのがよかった。/説明が分かりやすく興味を持ちやすかった。/ここまで実用的な授業を受けたことはなかった。
神経系統学 (PT・OT)	質問の際毎回ていねいに詳しく説明され、とても分かりやすく、自宅学習がしやすかった。/生徒のペースに合わせ、授業中に理解しながら学び進めることができました。/グループで話したり確認する時間があったので理解しながら勉強ができてよかった。/声が聞きやすく、図を用いての授業はわかりやすかった。

リハビリテーション概論 (PT・OT)	先生の説明でしっかり補足できたので理解できた。/実習時の話も聞けて2年後3年後のイメージができた。/スライドを使って分かりやすくまとめてあり、理解しやすかった。/実際の話を変えて説明していただき現実的で分かりやすかった。
作業療法概論演習 (OT)	動画があり実技の練習がわかりやすかった。/実際に臨床で使えそうだった。こんな授業がよい。/実際に現場で使う技術をしっかり練習できたと思う。確実に技術や知識を身につけて現場で行えるようにしたい。
精神医学 I (OT)	例えをたくさん言って下さったのとエピソードなどでイメージが付きやすく授業が楽しかった。/解説や具体例などで分かりやすかった。/問題を振り返ると同時に先生の体験談を思いだし、覚えやすかった。/先生の関連付けた話で授業の内容が頭に残りやすかった。
日常生活活動 (PT・OT)	試験のための勉強だけでなく臨床に役立つ知識と一緒に教えてもらい、楽しく授業を受けることができた。/症例を元に考える機会がありイメージできてよかった。/実際に福祉用具を使って体験し、イメージが付きやすくてよかった。/身障分野に興味が出てきたのも授業を受けてとても楽しいと感じたからです。
神経障害理学療法学 (PT)	補足資料があつてすごくわかりやすかった。/臨床での経験や、何故その症状が出るのか細かい説明でわかりやすかった。
運動器障害理学療法学 (PT)	分かりやすい説明で苦手意識がなくなった。/授業に参加しやすく聞き取りやすかった。/臨床のことや現場に近い授業で、実習に対しての不安が楽しみに変わりました。
理学療法評価学 (PT)	PTになるための技術の向上につながった。/臨床的な内容を分かりやすく学ぶことができました。/質問するととても分かりやすく教えてもらい、分かった時の喜びを感じた。/先生が迷いのない発言なので授業を安心して受けることができた。/説明が大変具体的で分かりやすく、細かい質問にも丁寧に答えていただき、大変意欲が上がりました。

授業評価総評

例年、久留米リハビリテーション学院では「授業評価」を実施しています。

平成30年度の授業評価との比較を行いました。授業評価の詳細は昨年度のパナーを参照してください。

先ず理学療法学科ですが、平成30年度の総合評価が87.17ポイント、令和元年度の総合評価は87.04ポイントであり、総合で0.13ポイント下がりました。詳細を見ていくと「パソコンや教材の活用」では0.58ポイント、「教員の関わり方」では0.17ポイント上がりましたが、「授業の進め方」では0.67ポイント、「教員の伝え方」では0.13ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では0.61ポイント昨年を下回りました。2項目は、昨年度を上回ることはできましたが、トータルで評価を下げた形となりました。再度今までの講義を振り返り、と同時に当学院の強みでもあるIT教材を用いた講義

を来年度は更にパワーアップさせ、学生の学習意欲の向上を図ります。

次に作業療法学科ですが、平成 30 年度の総合評価が 89.15 ポイント、令和元年度の総合評価が 88.18 ポイントであり、総合で 0.97 ポイント下がりました。詳細を見ていくと「パソコンや教材の活用」では 0.04 ポイント上がりましたが、「授業の進め方」では 1.04 ポイント、「教員の伝え方」では 1.18 ポイント、「教員の関わり方」では 1.61 ポイント、「学生の授業へのモチベーション」では 1.11 ポイント昨年を下回りました。昨年に比べ、トータルで 1 ポイント弱下げてしまいました。この数字を真摯に受け止め、両学科ともに改善を図る必要があります。

近年、学生の成績向上のために、居残り学習や早期からのグループ学習の導入など様々な取り組みを行っておりますが、やはり学習の原点は「予習をし、講義をしっかりと聞き、復習をすること」だと考えております。そのためにも、学生がいかに興味を持って講義に臨むかが重要であり、学生の自主性を導き出すよう講義を展開させていく必要性を感じております。

当学院では前・後期終了ごとに授業評価を行い、それに対する振り返りや改善への取り組みを行っております。

今回の結果を踏まえ、各教員には「講義実施に関する課題とその対応」を認識してもらい、より良い講義となるように次年度以降の講義に取り組んでもらいます。

令和 2 年 2 月吉日

専門学校 久留米リハビリテーション学院

教務部長 大坪 健一